

- 1 日時 平成31年1月23日(水) 5校時
- 2 学年 第1学年 12名
- 3 単元名 「たぬきの糸車」～かみしばいでつたえよう～
- 4 単元について

○ 本教材は、主人公であるいたずらものたぬきが、おかみさんの回す糸車を毎晩見に来るうちに、糸車の魅力に引き込まれていく。自らがきこりの仕掛けたわなに引っかかり、おかみさんに助けてもらった後、また、やがて、きこりの夫婦がいなくなった冬の間、おかみさんのように糸車を回して糸を紡ぐことができるようになったお話である。この教材は、子どもたちにとってたぬきと同化し、糸車への「回したい。」という興味あふれる気持ちを考えさせるのに適しており、民話の楽しさを味わわせる上で大変意義深い教材といえる。

文章構成の特質としては、「むかし」「ある月の～」「あるぼん」「やがて」「はるになって」などの時間の経過を表す言葉で場面が区切られているため、時間の経過が捉えやすい。秋から春という季節の経過で場面が移り変わり、たぬきのしたことをもとにあらすじをつかむことができるが、その間の冬の場面では、たぬきのしたことが描かれていない。そこで、秋の場面と春の場面を手がかりに、冬の間たぬきの行動を想像しながらたぬきの気持ちを読み取ることができる。

また、「キークルクル」という糸車の回る音(擬音)と、「くるりくるり」という擬態語が「～につれて」という言葉でつながれ、リズムカルな楽しさやユーモラスな情景を描き出している。児童は、音読を重ねていく中で、言葉の持つ響きを実感し、自然に物語の世界に入っていくことができるであろうと考える。

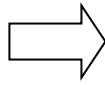
○ 本学級の児童は、6月教材「おむすびころりん」や7月教材「おおきなかぶ」では、文章のリズムを感じ取りながら音読することを学習してきている。また、9月教材「ゆうやけ」では、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと、10月教材「くじらぐも」では、くじらぐもや子どもたちの様子を想像し、その様子が表れるように音読を工夫したり、動作化を工夫したりすることで、主人公の様子を具体的に想像したり心情を考えたりしてきている。

○ 指導に当たっては、単元全体を貫く言語活動として、新1年生に向けた「たぬきの糸車」の紙芝居を作ることを設定し、目的意識を持って毎時間の読み取りを進められるようにしていく。まず、時を表すことばに着目させながら全文を読み、内容の大体をつかませる。その後、児童から出た意見や疑問点をまとめ、今後の読み取りの際のめあてとする。また、場面分けをするとともに、たぬきがしたことに着目させ、内容をとらえていく。その際には、たぬきがしたことにサイドラインを引いたり挿絵と言葉をつないで読んで動作化したり、あるいは教科書にない言葉を加えて挿絵に合うように書いたり、自分の経験とつないだりしながら読み進める。学習の最後にはたぬきになりきって「たぬき日記」を書くことでたぬきに同化し、読み深め、教科書にある言葉に「たぬき日記」の言葉を加えながら紙芝居を作る。

また、本時においては、回す真似をくり返していただけたぬきが、冬の間一生懸命糸を紡ぎ、春には上手な手つきで回せるようになった様子と心情を読み深めていく。そのためには、まず、たぬきのしたことの順番をつかませるため、挿絵をもとに、叙述と結び付けたりたぬきやおかみさんの心情を考えさせたりしていく。秋の頃のたぬきと比べたり、冬の間たぬきの様子や心情を想像させたりするなど、一人一人の思考を全体で交流させることにより、学級全体の読み取りの力を高めていきたい。単元の最後には、新1年生との交流会において読み取りを活かした紙芝居を行う。

児童の実態

- 日本や世界の昔話への興味（読書意欲）は高い。
- 書かれている事柄について、正しく音読できない児童がいる。
- 「だれが～した」の主述の関係が正しく理解できない児童がいる。



めざす児童像

- 文学的文章を正しく音読できる児童。
- 主述を対応させながら正しく読むことができる児童。
- 課題意識をもち、一人一人が自分の考えを話したり、友達の考えを聞いたりすることができる児童。
- 全体での読み取り（学び）を以後の音読や学びへつなげることができる児童。

本単元で育てたい資質・能力

①課題発見・解決力	○
②表現力	◎
③コミュニケーション能力	
④チャレンジ精神	
⑤自らへの自信	



手立て

- 挿絵を活用し、叙述を結び付けて考えさせる。
- 時間的な経過を表す言葉「むかし」「ある月の～」「あるばん」「やがて」「はるになって」に着目させ、時間の経過を意識させる。
- 「たぬき（は）～しました。」などの主語と述語の関係を意識させる。
- 単元のゴールとして、「たぬきの糸車～かみしばいでつたえよう～」を設定し、単元を通して目的意識を持たせながら読み取りを進めていく。

使わせたい用語と表現

時を表す用語 「むかし」「ある月の～」「あるばん」「やがて」「はるになって」
「○○（は）～しました。」などの主語と述語の関係を表す用語

5 単元の目標

場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。

【読むこと（1）エ】

6 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読むこと	書くこと	伝国
<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の行動を考えながら、昔話を楽しんで読もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 想像したことをもとに、話のまとまりや言葉の響きに気をつけて音読することができる。 場面の様子や登場人物の行動について、想像を広げながら読むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 読み取ったことをもとに、たぬきの気持ちを書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 主語と述語の関係に気を付けて読むことができる。

7 指導と評価の計画（全8時間）

次	時	学習活動	評価					評価方法
			関・意	読む	書く	伝国	評価規準	
第1次	1	「たぬきの糸車」を楽しんで読み、大体の内容を捉えて、感想をもつ。 課題発見・解決力	◎			○	<ul style="list-style-type: none"> 学習の見通しをもち、学習材について関心をもって読もうとしている。 単元の最後に紙芝居を作ることを知り、興味を持って取り組もうとしている。 全文を読んだ中から出た疑問点を整理し、読みのめあてに設定している。 	ノート 発言
	2	本文を場面分けする。 課題発見・解決力		◎		○	<ul style="list-style-type: none"> 何枚の紙芝居になるか、時を表す言葉に着目し、場面分けをしている。 	ノート 発言
第2次	3	糸車を回すまねを繰り返すたぬきの様子や心情を読み取る。 課題発見・解決力		◎		○	<ul style="list-style-type: none"> おかみさんの手元をじっと見ているたぬきの様子や心情を読み取っている。 	ノート 発言
	4	わなにかかったたぬきの様子や心情を読み取る。 課題発見・解決力		◎		○	<ul style="list-style-type: none"> たぬきがわなにかかった様子やおかみさんに逃がしてもらった後の心情を読み取っている。 	ノート 発言

	5 (本時)	糸を紡いでいるたぬきの様子や心情を読み取る。 課題発見・解決力		◎	○		・上手な手つきで糸を紡ぐたぬきの様子や心情を読み取っている。	ノート 発言
	6	ぴよんぴよこ踊りながら帰っていくたぬきの様子や心情を読み取る。 課題発見・解決力		◎	○		・うれしくてたまらないたぬきの様子や心情を読み取っている。	ノート 発言
第 3 次	7	紙芝居発表会に向け、自分が選んだ場面について、読み方を工夫して練習する。 表現力		◎			・自分の選んだ好きな場面について、学習を活かした読み方を工夫しながら練習している。	発言
	8	紙芝居発表会を開く。学習を振り返り、学習の感想をまとめる。 表現力	○	◎			・お互いの紙芝居での音読を聞き合い、評価し合っている。	ノート

8 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・春になって、上手な手つきで糸車を回すたぬきの様子や心情を読み取ることができる。
(読むこと)

(2) 観点別評価規準

- ◎場面の様子や登場人物の行動について、想像を広げながら読むことができる。(読むこと)

(3) 準備物

教：挿絵 短冊カード

【習得している知識・技能等】

- ・句読点
- ・会話文「 」(かぎ)
- ・「○○が～しました。」の主述の関係
- ・登場人物の行動を中心に想像を広げる力
- ・場面の様子を想像し、その様子が表れるように声に出して読む力

本時の学習を通して育てたい力

- ・時間的な順序を表す言葉に着目する力
- ・主述の関係を正しく理解する力
- ・内容の大体を捉える力
- ・場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読み、お話にない言葉などを考える力

(4) 本時の展開

過程	学習活動 主な発問 (◎) と予想される 児童の反応 (・)	指導上の留意事項 (・) と「努力を要する」状況と判断した児童への支援 (●)	評価規準 (評価方法)
つかむ	1 前時を想起する。 2 本時のめあてを設定する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 掲示物をもとに、前時までの学習を振り返る。 ・ 問い③の答えを本時は読み取っていくことを確認する。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> ◎めはるになって、糸をつむいでいるたぬきのようなすやきもちをかんがえよう。 </div>			
ふかめる まとめる	3 学習範囲を音読する。 ・ P 8 0 L 9 ~ P 8 4 L 3 4 たぬきがしたことについて話し合う。 ◎たぬきがしたことに線を引きましょう。 ・ 糸のたばが山のようにつんであったのです。 ・ まきかけた糸までかかっています。 ・ 糸車のまわる音がきこえてきました。 ・ たぬきがじょうずな手つきで糸をつむいでいるのでした。 ・ たばねてわきにつみかさねました。 ◎たぬきは、ふゆの間、何をしていたのでしょうか。 ・ 第4場面で、冬がやってくると、きこりのふうふは村へ下りていきましたね。その間、毎日糸車を回していたのだと思います。 ・ きこりのふうふがいなくなったから、たぬきはそのすきに糸車を回せるぞと思って練習したのだと思います。	<ul style="list-style-type: none"> ・ たぬきがしたことにサイドラインを引かせる。 ● 「たぬきは」(主語)に着目させる。 ● ペアで線を引いた個所を確認する。 ・ 冬の間 たぬきの行動(様子)や心情を前後の叙述から考えさせる。 ● 役割演技を取り入れ、冬の間 たぬきがしていたことを動作化しながら考えさせる。 ・ 何日間くらい回したのかななど補助的に問い、具体的なイメージをさせる。 	○ 春になって、上手な手つきで糸車を回すたぬきの様子や心情を読み取ることができる。 (発言・ノート)

ふりかえる	5 読み取ったことを「たぬき日記」にまとめる。	・「たぬき日記」として、たぬきになりきってまとめる。
	㊸ きょう、ぼくは、おかみさんのようにじょうずに糸をつむぐことができました。じょうずになってとてもたのしいです。おかみさんが見たらびっくりするかな。	
	6 本時の振り返りをする。	・本時の振り返りをし、次時へとつなげる。

9 板書計画

たぬきの糸車

⑤ きょう、ぼくは、おかみさんのようにじょうずに糸をつむぐことができました。じょうずになったりするかな。

挿絵

・ たぬきは、まい日のようにやってきて、糸車を回した。

⑥ はるになって、糸をつむいでいるたぬきのようにすやきもちをかんがえよう。

糸をつむいでいたわけ

- ・ まいばおかみさんがするのを見ていたから。
- ・ ふゆのあいだも糸車をまわしていたから。

⑦ きょう、ぼくは、おかみさんのようにじょうずに糸をつむぐことができました。じょうずになったりするかな。

挿絵

- ・ たのしいな。
- ・ おかみさんみたいにじょうずになつてきたかな。
- ・ おかみさんが見たらびっくりするかな。

きし
なみ

やがて、山の木のはが落ちて、ふゆがやってきました。ゆきがふりはじめると、きこりのふうふは、村へ下りていきました。

とをあけたとき、おかみさんは、あつとおどろきました。

白い糸のたばが、山のようにつんであつたのです。

ほこりだらけのはずの糸車には、まきかけた糸までかかっています。

「はあて、ふしぎな。どうしたこっちゃ。」

キーカラカラ キーカラカラ
キークルクル キークルクル

糸車のまわる音が、きこえてきました。

じょうずな手つきで、糸をつむいでいるのです。

たぬきは、つむぎおわると、

こんどは、いつもおかみさんがしていたとおりに、たばねてわきにつみかさねました。

てわきにつみかさねました。